

共につくる喜び

代田中学校
令和5年12月



人権週間

毎年12月4日～10日は人権週間です。

人権とは、人間らしく、幸せに生きる権利です。人権は、どこにいても、誰にでも、いつでも、尊ばれ、守られるべきものです。代田中学校では、人権週間に合わせて、道徳などで人権について考える機会を設けました。また、「人権を理解する作品コンクール」や「いじめ防止標語コンテスト」に作品を応募します。

人権集会

12月5日(火)「もくせいの花」の所長、鈴木 浄哉氏をお招きし、「障害者と呼ばれる人たちとともに作る社会」をテーマにお話をいただきました。「もくせいの花」では、「誰もが必要があり生きていく」という言葉を大事にしているそうです。

障害がある人とともに、どのような工夫をして仕事をしているのか話をしてくださいました。

生徒の感想 (一部抜粋)

今日、鈴木さんのお話を聞いて、障がい者と呼ばれる人たちがやることを分担して、得意なことや苦手なことなど、その人の特性を理解し、その人が行いやすい工夫などを知りました。私は、これを知ったとき、障がい者に限った話ではなく、私たちのクラスの中でも、運動が得意だったり、勉強が得意だったり、それぞれ特性の違う人がいて、協力することにより学級が成り立っているところが、この話に似ているなと感じました。

障害者って言われている人はいるけれど、その人たちだって、自分の得意なことを生かせば、世の中とうまくやっていけるんだと分かった。私は身近に障害者と呼ばれる人が何人もいたので、あまり感じたことはないけれど、世の中には、変わっていることがおかしいという人がいるという現実があるので、その人たちの意識が少しでも変わるといいと思います。

鈴木様が「障害者」ではなく、「障害者と呼ばれる人」と言っていたのが、その人たちへの思いやり、気づかひを感じて印象に残っています。



◎「もくせいの花」の理念
「木や草や山や川がそこにあるように、人間も自然の中にあるからには、ちゃんと意味があり生きているのだ。あらゆるものつながりを持って、そのつながりの中で大事な役割をもって生きているのだ。」
木は木としての役割を、草は草としての役割を、山は山としての役割を、川は川としての役割を、それぞれがその役割を果たすことによって自然が営まれています。
人間も同じように、この自然の中にあるからには、一人ひとりが大事な役割を持って意味があり生きているということです。

11月・12月の様子



11月21日(火)、1年生を対象に、「生命を考える会」を開催しました。講師に助産師の伊藤啓子氏をお招きしました。

赤ちゃんがおなかの中で育って誕生するまでの様子についてお話を聞いた後、代表の人が妊婦体験ジャケットを着用したり、赤ちゃん人形を抱っこしたりしました。

代中では、学期ごとに「レインボー賞」の表彰をしています。「レインボー賞」とは、学校内外を問わず、なかなかできない行いをした生徒や、学年や学級の目標に沿って努力を継続している生徒を、生徒や教職員が推薦し、表彰するものです。

2学期は、12月にすべての学年の表彰を行いました。

RAINBOW



年 組 さん
豊川市立代田中学校 校と印



12月2日(土)、資源回収が行われました。今回も代小と桜町小に分かれて行いました。

代小の赤コートでは、それぞれの人が、トラックの荷台やコンテナの中、アルミ缶や牛乳パックなどの位置について、資源を運搬してくる車を待ちました。車が入ってくると、荷物をどんどん降ろして、運んでいきました。誰かに指示されなくても、仕事をどんどん見つけて動いている姿が気持ちよかったです。

PTAの役員や地区委員の方だけでなく、保護者の皆様、地域の方々にもご協力いただきました。本当にありがとうございました。



DAT(総合)の時間にクラスや学年での発表会を行いました。それぞれが課題をもち、調べたことや体験したこと、学んだことをまとめて、みんなの前で発表をしました。

各学年の代表者は、12月20日(水)に行われる全校発表会に臨みます。